

Parco Naturale delle DOLOMITI

ドロミーティ ヨーロッパ有数の景観地を訪ねて

イタリア北東部にある山岳地帯、ドロミーティ。日本では長く「ドロミテ」と呼ばれていた。2009年にユネスコの世界自然遺産に登録されて以来、季節に関係なく注目を集めている地である。特に夏は避暑地、冬はスキーリゾート地として有名。ヨーロッパだけではなく、世界中からスキーを楽しむ旅行者がやってくる。

text & photograph by Kazuya Yamauchi 協力 Comitel & Partners

世界自然遺産ドロミーティ。東アルプス山脈の一部で、その山々はイタリアのコモ湖からリヒテンシュタイン、スイス、オーストリア、そしてドイツの国境まで延びている世界有数の山岳地帯である。

冬のドロミーティを訪れてみると、絶壁の荒々しい山々が美しい雪化粧に飾られている景観に圧倒される。雄大なパノラマ

を訪れる人々を驚かせる。

ドロミーティの世界自然遺産に触れる旅はウエネツィアのマルコポーロ空港から始まった。そこから自動車で二時間くらい北上すると稜線が見え始め、ドロミーティの拠点となる町であるコルティナー・ダンベッツォに到着した。ここはウエネツォ州（州都・ウエネツィア）に属する、中世の野営みが残存する小都市であるが、イタリア屈指の高峻山岳リゾート地として、また、イタリア富裕層の別荘地としても有名である。ウインター・スポーツの客が多く訪れるため、ホテルやペンションも充実している。

コルティナー・ダンベッツォに到着した時はすでに夕暮れ時。ドロミーティの山々が夕日を浴びて赤く染まり、しばし突然と眠ってしまう。コルティナー・ダンベッツォから見える「三〇〇メートル級の山々は「ドロミティの女王」と呼ばれ、この赤く染まる現象は「Brossdral」（ブロスザイラー）イタリア語でバラ色になるの意味」と呼ばれている。実に美しい光景だ。